

不二製油グループ本社株式会社 2024 年度第 2 四半期 決算説明会 主な質疑応答

・日時	2024 年 11 月 12 日 (火) 10:00~11:00		
・出席者	代表取締役社長	最高経営責任者 CEO	酒井 幹夫
	取締役 兼 上席執行役員	最高経営戦略責任者 CSO	田中 寛之
	取締役 兼 上席執行役員	最高財務責任者 CFO	前田 淳
	上席執行役員	不二製油(株)代表取締役社長	大森 達司

Q. 下期のブラマーの営業黒字の確度、また、考えられるリスクと、その対応策は。

- A. ブラマーでは、シカゴ工場閉鎖によるコストダウンの寄与、シカゴ工場からの生産移管を進めた既存 3 工場の稼働率の向上、また、カカオ高を受けた販売価格の改定により、下期での業績改善を見込んでいる。
- リスクとしては、北米の販売動向とカカオ相場変動の 2 つが挙げられる。販売動向に関しては、上期よりコストアップを見越した価格転嫁を進めているが、景気動向により販売動向が鈍化し、契約履行が遅れる場合、価格転嫁の効果が表れる時期が遅れる可能性がある。カカオ相場変動に関しては、24 年産カカオ（新穀）への期待感により価格は落ち着くと見ているが、各国のカカオ豆の在庫状況や需給バランスにより、カカオ価格が高止まり、先物限月間値差（スプレッド）が縮小しない場合には、ブラマーのカカオ特殊要因の解消が遅れる可能性がある。こうしたリスクの低減に向けて、構造改革でもお示しているカカオ事業の適正化を通して、カカオ在庫数量の削減をさらに加速させる。

Q. 上期に、ブラマーを除いた業務用チョコレート事業は堅調に推移しているが、下期以降の販売動向は。

- A. 上期においては、カカオ相場急騰に伴うコストアップを見越した価格対応に加え、販売数量も伸長したことから、堅調に推移した。下期においては、チョコレート菓子の小売価格上昇や量目減などによる販売数量減少のリスクはあるものの、価格対応の浸透に加え、グローバルでのコンパウンドチョコレートの継続した需要により、販売伸長を期待している。

Q. チョコレート用油脂 CBE は数量が好調に推移しているが下期の数量や単価の変化をどのように考えているか。

- A. 上期のチョコレート用油脂 CBE の販売数量は、前年同期比 129%となり、日本、東南アジア、欧州で好調に推移した。特に東南アジアでは、新規顧客の獲得も進み販売数量が大きく伸長。下期の販売数量は、北米での景気動向など懸念点はあるが、上期の販売トレンドが継続することを見込んでいる。また、単価は新規契約が開始される第 4 四半期以降の貢献を想定している。

Q. 来期以降の CBE 市場をどのように想定しているのか。供給量の更なる改善は可能か。

- A. カカオ価格は産地での生産量の回復と共に、将来的には従来の価格に収斂していくと考えているが、来期以降も引き続き CBE は好調を見込んでいる。生産キャパシティ的には、来期もフル生産が続くと見込んでいるが、生産工程を見直し更なる効率化を進めたい。また、CBE の機能性や、使い方を顧客にご理解いただくことで、需要の更なる喚起、採算性の向上も図ってきたい。

Q. CBE 用原料の調達強化として合併会社の設立とされているが、現状の状況は。

A. 欧州を中心にトレーサビリティの強化やプロセスコンタミナントの低減等のサステナブルな要求が高まっており、需要に対応するため合併会社 JPG FUJI SDN. BHD.を設立した。当初の計画通り2026年の稼働を予定している。

以上